

子育て支援・地域からのニーズ

丹 治 睦 子
(常葉学園短期大学)

1. はじめに (研究の目的として)

静岡市の安倍川西岸にあるM地区(1小学校区)では、平成14年度より、地区の社会福祉推進協議会(以下地区社協とする)が主催し、子育て支援事業として『子育てひろば』を開いている。

『子育てひろば』は、地区内において月1度開催し、活動の内容としては、毎回主任児童委員、民生委員、ボランティア数名が参加し、イベントや特別の企画はせず、子育て中の親子が気軽に立ち寄れてくつろげる場を提供するという形をとっている。

このほか、M地区内には私立保育園1園、私立幼稚園1園があり、各園で月1度ずつ子育て支援プログラムを開催している。

このような、比較的に子育て支援が充実しているM地区内の子育て家庭は、地区の子育て支援に対して、どのような評価をしているのであろうか。また、そうした評価からは、どのようなニーズが読み取れるのであろうか。本報告では、M地区の子育て家庭を対象に、子育て支援の利用状況や、子育て支援への評価に関する調査を行い、その結果を踏まえて、子育て支援利用頻度の高い親子の現在の有り様や母親の視点を通し、地域で取り組む子育て支援の形として、どのようなものが真に望まれているのかを考察したい。

2. 研究の方法

- (1)期間 平成15年12月7日～12月18日
(2)対象 地区内保育園の子育て支援プログラムに平成15年度に参加登録している子育て家庭の母親54名。
(3)方法 質問紙調査(配付54・回答36・回答率66.7%)

3. 研究の結果と考察

- (1)1か月に大体何回ぐらい子育て支援の場を利用していますか?

利用回数	回答数 36	%
0～2	14 人	38.9
3～5	11 人	30.6
6～9	5 人	13.9
10～14	2 人	5.6
15～20	4 人	11.1

25人(69.4%)が5回以下の利用となっているが、毎月10～20回利用している親子が6人(16.7%)い

ることは興味を引く。子育て支援の場の利用頻度の高い親子と、あまり高くない親子とでは状況の違いはあるのだろうか。

- (2)近くに気軽に子どもさんを見てもらえる知り合いなどがいいますか?
(3)お子さんと一緒に少し遠方に外出する時、交通手段は何ですか?
(4)子どもさんの数と年齢は?

表1の結果と、(2)、(3)、(4)の問いに対する回答との関連を分析した結果、毎月10回以上子育て支援の場を利用する母親には、動きやすい交通手段(自家用車・1名は電動自転車)が必要条件となっていた。しかし、その他の項目については、利用頻度との相関関係は見られなかった(本稿では詳細は省略、別紙資料参照)。

4. 積極的に子育て支援を利用する親子について

[表1]に示された中で、子育て支援に対する利用頻度が特別高い10回以上のグループ6人について、利用する支援の内容との関連を[表2]にまとめた。

表2 最近2ヶ月間に、どのような子育て支援を利用または参加されましたか?(複数回答) N=36

(M地区から利用できる主な子育て支援)	A(6名)
地区の保育園・幼稚園のプログラム*	5
地区社協主催 子育てひろば	5
他の保育園・幼稚園のプログラム *	17
地域子育て支援センター(5カ所)	0
中央子育て支援センター有料保育	2
〃 交流サロン	2
保健センターでのプログラム	1
ファミリーサポートセンター	0
各公民館でのイベントなど *	20
その他 **	8
延べ参加数計	60

注1) A は、表1の利用回数10回以上の人6名

注2) * 保育園・幼稚園は園ごとに、公民館でのイベントもそれぞれに数えている。

**「その他」は、他市の支援センター参加1、個人主催体操教室4、個人的レッスン等。

表2に示したように、子育て支援を毎月10～20回利用しているグループ6名は延べ60ヶ所の支援の場に参加していることになる。1プログラムでも1か月に複数回開催するものもあるので、延べ参加回総数はかなり多いことになる。

全体として、地域のプログラムと他の保育園・幼稚園のプログラム、そして、公民館等が主催する各種イベントに多数回参加している。1か月に15回以上参加すると、父親の休日や他の予定等を除いて、ほぼ毎日出かけることになるという。(実活動例は資料参照)

毎月10回以上子育て支援の場に出かける母親の視点を、自由記述の回答の中から考察したい。

(1) 子育て支援利用の契機

積極的に支援の場に参加するようになったきっかけとしては、次のような記述がなされている。

- ①まず、地域の保育園のサロンに参加して、友達ができ、誘い合うようになった。
- ②引っ越して間もなく、地域の子育て支援に参加して、そこで情報を得て自分で。
- ③家の中ばかりにいると子どもが喜ばず、午前中外出し午後は昼寝という型になった。

このように、子育て支援への参加には、地域対象の回覧やチラシ、知人の声かけによって、まず地域の支援の場に踏み出すことが次のステップとなっていることがわかる。

(2) 子育て支援の利用内容とその理由(評価)

自分が参加した中で、どのような子育て支援の形がよかったと思いますか、という問いに対しては、次のような回答がなされている。

- ①年間行事のイベント(もちつき・節分・ハロウィンなど)
- ②託児付きのイベント・講座(母子別々のもの)
- ③親子で思い切り身体を使える催し。
- ④子どもあそび教室
- ⑤地域の『子育てひろば』

ここから見てとれるように、全体としてはイベントを好み、託児の充実を望んでいることがわかる。その中で地域の『子育てひろば』が上げられていることは興味深い。また、それぞれの支援が良かったと思う理由としては、次のような記述が見られた。

- ①(年間行事など)家庭ではなかなかできない。
- ②(託児があると)安心して内容に集中できる。
- ③親も子も楽しいから。
- ④年齢にあっていて子どもがとても楽しむ。

などであるが、ここで特筆すべきは『子育てひろば』に関して以下のように多く述べられていることである。

i) 2人の子どもを連れて行っても、見てくれる人がいるので安心。

ii) 子連れでない人の参加があると、複数の子どもを連

れても行きやすく、下の子を見てもらって、上の子と自由に遊べ、親同士もゆっくり話ができる。

iii) 年子の子どもを連れて行っても助けてもらえる。

iv) 知り合いが増える。(世代の違う地域の人と交流できる)

v) 身近な情報交換ができる。

vi) 1歳未満の頃参加できるイベントが少なく、自宅に閉じこもりがちになる。地域の支援の場は、小さい子どもを連れて安心して参加できる。できればもっと回数を増やして欲しい。

このように、ほぼ毎日多くの子育て支援の場を利用している母親達からは、現在の地区における支援のあり方が評価され、認められていることがわかる。また、「世代の違う地域の人との交流」「子連れでない人の参加」は、M地区における『子育てひろば』の一つの特徴といえる。こうした評価があるということは、裏返せば、異世代間交流や子どもを見てもらえることへのニーズがあるといえるのではないだろうか。

(3) 子育て支援利用後の感想

積極的に支援の場を利用して試みての感想としては、以下のようなものが見られる。

- ① いろいろな催しものに参加することは、子どもにとってもうれしいと思う。
- ② 友達といろいろな場所で会い、情報交換したり、子育ての話だけでなく、いろいろ話をすることでストレスも発散できる。
- ③ ずっと家の中で2人きりであるよりも外へ出かけて行き、日常とはちがう刺激を求めて日々生活していく中で子どもの成長を伺い見ることができ、子育てって楽しいなあと思う。

母親たちは、ほぼ毎日積極的に子育て支援の場に参加し、「子育てって楽しいなあ」と日々感じている。

5. 今後の課題

これらの調査の結果、地区社協で取り組む支援の形として、現在の『子育てひろば』のあり方が一応評価されていることがわかった。しかし、回数を増やして欲しいという希望や、全く支援の場に出て来ない地区内の親子への働きかけをどうしたらよいかという問題もあり今後の活動の課題は多い。

また、1か月に15~20回も子育て支援を利用する親子の存在が、どの程度一般的なものかについての調査、また、本稿において分析が不十分であったと思われる「子育て支援利用頻度の少ない家庭の母親」の視点についての考察等も今後進めていきたい。